



1年生「ルン ルン ルン」(内容項目C 家族愛、家庭生活の充実)

ねらい

今回の授業では【家族のために自分ができることを進んで手伝うことで、家族の一員として役に立つ喜びに気付く、自分も家族のために役に立とうとする心情を育てる】ことをねらいとして授業を進めました。

授業の様子

はじめに、どんなお手伝いを普段しているのか確認すると「洗濯物たたみ」「肩たたき」などが出てきました。続いてお手伝いしているときの気持ちを聞くと「いそがしい」「めんどくさい」「つかれる」など後ろ向きな意見が多く出されました。そうだねと共感しつつ、本当に「つかれる」だけなのか、「お手伝いをするとどんな気持ちになるのか」をめあてに教材を使って考え合いました。



教材文の概要

主人公の【ぼく】は毎日洗濯しているお母さんに「毎日大変じゃないの」と尋ねると「わたしは、とっても、ルンルンよ。きれいになると気持ちがいいわよ」とお母さん。その後、取り込んであった洗濯物を内緒で弟たちとたたむ【ぼく】。ごはんの時にその話をするとお父さんも、お母さんも「ありがとう、ルンルンルン」だって。次の朝、自分でたたんだ服を選んで着たら、とってもいい匂い。すると、なんだか【ぼく】も「ルンルンルン」という気分になったのさ。

教材を読んで、まず、洗濯物を干しているときのお母さんを見ている【ぼく】の気持ちについて考えました。「うれしそう」「きれい、ぴかぴか」「ぼくもやってみたい」という意見が出されました。続いて内緒で洗濯物をたたんでいるときの【ぼく】の気持ちはと尋ねると「楽しい」「難しい」「忙しい」「めんどくさい」など難しいお手伝いに苦戦している【ぼく】に共感できる意見が多く出されました。そこで、両場面とも根底にあるのは『家族のため』だという思いであることを確認しました。最後にお家の方と一緒に『なんだかぼくも「ルンルンルン」という気分になったのさ』となった場面についてその理由をじっくり考えました。「気分がいいから」「家族のためにできたから」「めんどくさかったけど自分も家族の一人だから」「ぼくにもできたから」と家族のために行動することの喜びに気付くことができ、お手伝いに対して、違った視点から考えるきっかけになったのではないかと感じました。家族のお手伝いをするとどんな気持ちになるかという振り返りでは「家族みんながいい気持ちになる」「もう一回やろう。自分だったら洗濯物たたみをする」「大変だけど家族のために役に立ててうれしい」と家族の気持ちを考えられたことは大きな成果だと思います。

以下に参観された保護者の方々の感想を一部掲載させていただきます。

- 「子どもたち自身で考えたり、話し合ったりする機会を積極的に設けていてよかったです。家に帰ってから家族のために自分ができることはないか、やってみようという気持ちになれる声かけをもっとしていきたいと思いました。」
- 「どの意見も否定することなく、話を進めていく教師の姿勢がすばらしいと思いました。家族を大切に、社会の一員として自分のできることをやっていく気持ちを育てていくのにとってもすてきな授業だと思いました。」
- 「誰かのために自分のできることをやろうとする気持ちはとても大切だと思います。家族以外の人も助けてあげたいなどの気持ちにもつながると思いました。」
- 「うれしい、楽しいなど想像できても、なぜそういう気持ちになるのかまで考えるのはなかなか難しいんだなと思った。普段も兄弟げんかなどの際、相手の気持ちを考えさせる時間をつくりたいと思った。」
- 「家でもお手伝いをしてもらおうことがあります。私から声をかけることが多いです。今日の授業をきっかけに、自ら気付いてお手伝いをしてくれるといいなと思います。私からもしっかりありがとうございますの気持ちを伝えたいです。」